白岡八幡さま

コロナ禍 秋の大祭（一〇月一七日）は縮小します

”神事は斎行し　灯籠は灯入れします”

発　行
白岡八幡神社
〒349-0218
埼玉県白岡市白岡 889
社務所
TEL.0480-48-5118
白岡八幡神社　検索

夕刻に70基の灯籠に灯入れ予定

さわやかな秋、人それぞれの祭の記憶を呼び覚ます。華やかな町祭、そこで曳いた山車の綱、秋空の下の村祭、遠くに聞こえる笛の音、ずらりと並んだ露店の灯と匂い、神社が無くて親たちが手造りした祭、そこで担いだ紙と木の神輿。

白岡八幡神社の秋祭りは、五穀豊穣に感謝する祭で、神事が本殿で厳かに行われ、神楽殿では巫女舞、お囃子、太鼓が奉納されます。遠い昔は文字通り村の神社で、秋の収穫を感謝する祭でした。いま住宅地化が進み新しい住民が次々と転入されていますが、地域住民の「家内安全」「健康保持」を祈念する祭であり、神事であることに変わりはありません。

境内では、射的、ヨーヨー釣り等のテントが張られ、神楽殿では様々な演芸が披露され、最後は大抽選会が行われます。

以上が近年の秋季大祭ですが昨年春以降の新型コロナウイルス感染拡大によって、白岡八幡神社の年中祭事は大幅な縮小を余儀なくされました。令和二年の秋の大祭は神事のみに縮小し令和三年初詣、春の例大祭でもコロナ対策に全力を集中しました。

◆奉納・催し中止　祭典委員会で決定

いまなお県内、市内のコロナ禍の状況は予断を許しません。

白岡八幡神社は、祭典委員会を開き、令和三年一〇月一七日の秋季大祭は、神事のみ執り行う、巫女舞、お囃子などの奉納や催し事は行なわない、なお「灯籠」は制作すると決定しました。

白岡八幡さまの秋の大祭は、別名「灯籠まつり」と言われます。白岡町史資料に記録があります。

明治時代、神楽殿では田舎歌舞伎が奉納されていましたが、大正時代になると面神楽に替わりました。その時一〇八の灯籠を灯した中で舞われたのです。

そして「灯籠」は、昭和、平成令和と、総代、若衆総代によって大事に引継がれてきています。

今年も白岡の水彩画クラブ水墨会に描画をお願いし、総代世話人で灯籠を制作します。

当日は、天候によりますが、夕刻に七〇個の灯籠に灯を入れますので、コロナ感染に気を付けてご鑑賞ください。

◇神職雑感

幾度となく疫病と闘う

新型コロナウイルス感染は、変異型の発生により厳しい状況が続いています。そういう中にも、多くの方に日々ご参拝いただき御礼申し上げます。

コロナウイルス禍の中、私たちは自らが感染しない、人に感染させないという強い気持ちをもち続けることが肝要です。

疫病との闘いでは、我が国は古代、中世、近世という歴史の中で幾度となく感染症と闘い病に打ち勝ってきました。

改めて日本の生活習慣に注目しますと、私たちは家に入ると靴を脱ぎ、内と外を区別します。

また剣道で見られる間合い、それを大事にし、人との一定の距離を取るという礼儀の文化を持っています。

神社参拝に際し禊（みそぎ）手水を行うことは感染防止につながることではないでしょうか。

神事として毎年五月一日に防ぎ祭（ふせぎさい）を斎行しています。古くは村などの境界などにお札を立てるものですが、現在は参道の入口と出口に立てて、穢れを忌避し神々の祟りを祓うべく疫神を祀っております。

この他神社には年間様々の行事があります。それぞれ意義があり絶やすことは出来ません。

今後も、恒例の通り神事を斎行しますのでご理解とご協力をお願い申し上げます。

禰宜　野原朋之

野原禰宜(ねぎ)

氏子崇敬会

◆独自の清掃活動を計画　境内にベンチを寄贈

白岡八幡神社氏子崇敬会は発足七年目になりますが、役員会でコロナ禍の中、この一年感染リスクを抑えながら如何に活動するか検討しました。

第一に、会員について。これまで個人会員中心でしたが、今後は法人や団体会員の加入を進めます。

第二に、会の奉仕活動について。崇敬会として年に二・三回神社の清掃活動を計画します。なお清掃作業の終了後、本殿においてコロナ禍の収束を願っての御祈祷をします。

7月25日にベンチ寄贈式を実施

第三に、ベンチの寄贈について。コロナ禍においても参拝する方は例年以上です。参拝の方のためにベンチを三ヶ所設置するにあたり、一ヶ所を崇敬会から寄贈しました。

第四に、毎年実施してきた明治神宮参拝を含む研修旅行は令和二年度は中止しましたが、令和三年度はコロナ禍収束後に実施したいと思います。

本年は以上を重点に、会長、役員、会員が協力し目的達成のために精進してまいりたいと思います。

氏子崇敬会副会長　藤沼貞夫

白岡八幡神社

◆宗教法人としての「八幡神社」を考える

氏子神社は、地域の人々の信仰・信頼・協力に支えられています。大きな立派な神社であっても、その維持・発展のために重要な役割を総代・世話人が担っています。総代・世話人は信者を代表し、氏子の地区別に選ばれ、宮司が委嘱します。それは非常勤の名誉職で、職員ではありません。総代・世話人で構成する「総代会」は、神社の護持・発展の母体となっています。すなわち総代・世話人は祭祀活動の補助者であり、宮司の純然たる協力者として神社運営に参加する存在です。

一方、「宮司」は神職の職階の一つですが、責任役員の具申によって、神社本庁の統理が任命する役職です。任命された宮司は宗教法人としての神社を代表する「代表役員」であり、法人の事務を統括するという重大な責任を負うことになります。宮司は、祭祀や神事の最高責任者であるとともに会社でいう代表取締役であります。

また宗教法人としての神社には「代表役員」のほかに二人以上の「責任役員」を置くことが義務化されています。責任役員は宮司とともに神社の維持運営に関する事務を決定するという職務を果たします。責任役員の選出方法は、神社の運営に適当と認められる者の中から総代会で選考し、宮司が委嘱することになっています。代表役員（宮司）が法人の執行機関、責任役員会が法人の意思決定を行う議決機関であります。

日頃、祭祀や神事を執行し、地域の人々の憩いの場であり続け、教化活動を進め、神社としての活動基盤を確実にするために、「白岡八幡神社」では宮司と三名の責任役員の計四名で執行しております。なお神社規則では、役員会の招集は代表役員である宮司が行うこととなっています。白岡八幡では、この責任役員会のほかに、事務局が入った「運営会議」、さらに総代・世話人全員を対象とする「連絡会」をほぼ定期的に開催しています。

宮司と責任役員が、両輪の如く協力・協調し、責任役員、総代・世話人が一緒になって活動できる組織運営が大事だと思い努力していく所存であります。

白岡八幡神社責任役員
総代会会長　川島昭男

川島会長

お願い

境内や参道の清掃を手伝っていただけませんか

白岡八幡の森は深く、落葉高木のケヤキをはじめ様々な木々がありますが、その落葉の掃除に追われています。特にこれからの季節は、リヤカーで何回も捨てに行きます。勿論ゴミは落葉だけではありません。

現在は、神職、総代、世話人の三〇名が月一回、九時に集まり清掃していますが、高齢化が進み正直大変になっています。

毎月の第二日曜日、九時集合、お茶と煎餅の休憩を挟んで約二時間の作業です。

手伝っていただける方は、社務所にご連絡願います。

電話０４８０・４８・５１１８

なお作業日は第二日曜日ですが祭事のある月は変更されますのでご注意ください。

参道で落葉掃き

お互いの得意を生かして制作
躍動の牛が目を引く「絵馬」

白岡高校美術部は現在、一年生三人、二年生五人、三年生三人の計十一人で活動しています。普段はコンクールに向けた個人制作を中心に、文化祭のポスターやアーチづくりなども行っています。

毎年白岡八幡神社に奉納している巨大絵馬は、十干十二支の意味や縁起物などについて考え、構想を練っています。今回は、当時一年生の小川珠希さんのデザインが選ばれました。

牛の目線を太陽に向け、新たなスタートを切る姿を表現しています。牛の背には「良い兆し、目出度いことの前兆」という意味を持つ吉祥草、両端には「次々に花が開く」と縁起のいいツツジをあしらいました。デザインが決まったら、下絵を絵馬と同じ大きさに拡大し、不自然な箇所を整えながら転写します。ツツジの立体感や牛の骨格がとても難しかったです。

色塗りではアクリル絵の具を使用します。ベタ塗りとグラデーションをしっかり分け、絵馬のメインとなる部分が目立つように意識しました。最初は作業のペース配分や役割分担が難しく思うように進みませんでしたが、お互いの得意を生かしながら制作できるようになりました。一丸となって制作できたことで、躍動感のある牛が目を引く、今年の干支にふさわしい絵馬になったと思います。

白岡高校美術部部長　橋本菜那さん

白岡高校美術部の皆さん

壱の鳥居から神殿まで祝列
白岡八幡さまで「結婚式」

昨年の春、緊急事態宣言発出前のことですが、白岡八幡神社の神殿で結婚式が挙行されました。結婚式場での神前結婚式は少なくありませんが実際に地元の神社で結婚式を行うことは稀なことでしょう。事実当神社でも数十年ぶりの結婚式でした。

当日は暖かな天候で、壱の鳥居から神職が先頭で、雅楽奏者、巫女新郎新婦、ご親族の順でお祝いの列を作って歩みました。ついで枝垂れ桜の花びらが舞う中に、弐の鳥居をくぐり本殿に向かいました。

神前では、修祓（お祓い）、献饌（けんせん）、祝詞奏上、結盃の儀誓詞奉読、指輪の交換、玉串拝礼撤饌（てっせん）と、結婚の儀が厳かに進められました。

本殿で厳かに結盃、指輪交換

壱の鳥居から神殿までの行列や千二百年の歴史を持つ八幡神社の神前での結婚の儀は、お二人の忘れられない思い出になったのではと思います。

桜花の中を進む祝列

ご祈祷の話

お参りの仕方を教えてください

特に決まりは有りません。心を込めてお参りすることが大切です。

○鳥居をくぐる前に一礼します。
○参道は真ん中を避けて歩きます。
○手水舎では手、口を清めます。
○拝殿前で鈴を鳴らします。
　お賽銭はここで入れます。
○次に二拝二拍手一拝です。

姿勢を正し、深いお辞儀を二回行います。胸の高さに両手を挙げ右手を少し引いて手を合わせ、次に肩幅程度に両手を開き二回打ちます。そして手を合わせお祈りします。最後に深くお辞儀をします。

厄払いについて教えてください

厄年は数え年で数えます。男性は二五歳、四二歳、六一歳、女性は一九歳、三三歳、三七歳が本厄でこの前後年を前厄、後厄と言います。中でも男性四二歳、女性三三歳は大厄と言われます。厄年は、人の一生の中で、体力、家庭、社会的な立場それぞれで転機を迎える時でもあり、災厄が起こりやすい時期として忌み慎まれています。

厄払いとはその年に、神様の加護により災厄から身を守るための厄除けの儀を神社で行うことを言います。なお厄除けの儀は実施時期に決まりは有りませんが、当該年の早めがお薦めです。

◆初宮、七五三など
御祈祷予約は社務所まで。
【電話 0480-48-5118】

古いお札・お守りの納め方

古くなったお札やお守りは、神社境内北側の古札納所でお預かりしています。お守りいただいた神様に感謝し初穂料を添えて返納してください。随時魂抜きのお祓いを致します。

なお古札納所はゴミ捨て場ではありません。包装材などはお持ち帰りください。

《お預かりできるもの》
神社で授与された
お札・お守り・だるま・絵馬・破魔矢（金属鈴は切り取る）
しめ縄・神棚（手持ち出来るもの）
大きくて古札納所に入らないものは社務所窓口にご相談ください。

《お預かりできないもの》
上記以外のもの
（例）人形、金属・ガラス・陶器・樹脂などの製品
正月飾り・松飾り・食品・日用品・雑貨類

散歩の寄り道「八幡さま」

季節の木花・草花が楽しみ　ベンチを三基設置しました。

市内では多くのひとが日々散歩しています。ご夫婦でゆっくり歩く方や一人でサッサと早歩きする方など散歩の形は違えどもいずれも羨ましい習慣です。

散歩をしようとコースを考えるとき安全なことが第一ですが途中に立ち寄りたい「寄り道」、例えば明るく清潔な公園や、境内が広々と開放されている由緒ある神社や名刹があると嬉しいものです。

白岡八幡神社も、日頃多くの人に立寄っていただいていますが一層立寄りたい「寄り道」であるようにと清掃、整備しています。先日、参拝の方から「最近境内がきれいになったね」、「季節ごとの花が楽しみ」と言っていただきました。総代・世話人会の「境内整備係」にとって実に嬉しいことです。念のため、境内の花を調べてみました。多いので表にしましたので、参考にして下さい。

社務所の窓口にいて気がついたことですが、参拝や散歩でおいでの皆さんが足早にお帰りになるのです。もちろんお忙しいこともあるでしょうが、もしかしたら腰を下ろし足を休める場所が無いためかもしれないと考えました。どうすればいいかと相談が進み、本殿周囲にベンチを三基設置する事に致しました。ご利用頂ければ幸いです。

三基のベンチのうち一基は氏子崇敬会からの寄贈、二基は氏子崇敬会会長の山口政春氏が所属する大成ラミック株式会社の地域貢献事業の一環として寄贈頂きました。

早速、ベンチに座ってみました

八幡神社に咲く木花・草花

	木花	草花
春	桜・しだれ桜・梅 椿・馬酔木（あしび） 石楠花（しゃくなげ） 三つ葉ツツジ	白山イチゲ クリスマスローズ オルラヤ シャガ
夏	夏椿・サツキ 百日紅（サルスベリ） あじさい・山あじさい ヤマボウシ アナベル	山ユリ 檜扇（ひおうぎ）
秋	白萩・金木犀	彼岸花
冬	ロウバイ・寒椿 ヤツデ	一両・千両 万両・つわぶき

（総代・世話人会境内整備係調べ）

私の散歩道

白岡八幡さまから元荒川土手へ散歩

私は終戦直後の昭和二一年生まれ、白岡に生まれて白岡で育ち、いま七五歳になります。

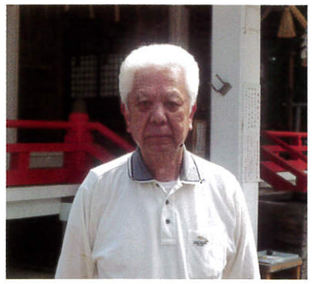
平成一七年、六〇歳の時、長年勤めた会社を退職、それを契機に近辺の散歩を始めました。雨の日は中止ですが、毎日、午前中一時間の散歩です。

まず立ち寄るのが、白岡八幡さまです。自宅から大鳥居まで一〇〇mで、引き続き二の鳥居をくぐり境内をぐるりと回り、社務所の当番二人に声をかけます。

次の目的地は元荒川沿いの道です。さいたま栗橋線を「白岡駅入り口」で渡り、西地区は碁盤の目ですから元荒川までのコースはその日の気分で選びます。

八幡橋から茅野の渡しまでの元荒川沿いの道に、染井吉野、八重、河津などの桜、数十本が植えられ、各季節それぞれ風情があります。もちろん三月の、何分咲きの状態から、満開、桜吹雪へと続く約二週間の見事さは言うまでもありません。

（新田・小林志郎さん）


本殿前の小林さん

心を癒してくれる樹齢六百年の榧木

私はいま六七歳です。蓮田市に住んで三〇年ぐらいですが、去年から散歩をしています。

新型コロナ感染拡大阻止のため緊急事態宣言が何度も発令され、私も用事が無い限り外出は避け、家とスーパーの往復の毎日、運動から次第に遠のいて、体重もそうですが運動不足を強く感じるようになり、コロナ対策として密を避けながら、コロナに負けないために白岡八幡様への参拝を兼ねた散歩のコースを決めました。

コースは往復一時間でしょうか。元荒川沿いから、さいたま栗橋線を渡り、住宅街を通り、八幡公園を抜け、白岡八幡様へという道程です。

途中の家々の玄関先には花や緑が飾られ、道路もきれいです。公園も自然があり、神社の鳥居をくぐると緑に囲まれます。樹齢六百年の榧木や木々が心を癒してくれます。神社は、車の騒音から離れ静かで、心落ち着く場所です。大きなエネルギーをみんなが与えられるよう願いながら参拝しています。

（蓮田・みわさん）

本殿右横の榧木（カヤノキ）